

平成20年度

事業計画書

財団法人 車両情報センター

平成20年度事業計画

本財団は、平成16年度から実施した車両情報システムの再構築が前年度に終了し、平成20年度は競輪が誕生して60周年、本財団が創立されて20周年を迎えるが、競輪の現況や取り巻く環境は依然として厳しいものがある。このような状況を踏まえ、本財団は、競輪関係団体と緊密な連携協調のもとに、お客様及び競輪関係者の要望を満足させ信頼を得ながら、競輪の発展に寄与するシステムの開発及び安定したシステムの運用管理の事業を展開する。

システムの開発については、競輪の現況及び展望を踏まえ、特に競輪場の情報システムが抱える課題を解決するために、各競輪場が独自に運用管理しているトータリゼータシステム及びインターネットによる動画配信システムについて、コスト削減及びサービス・機能・信頼性の向上を目指して、「次世代車両情報システム」を構築することとする。すなわち、業界の最重点開発事業として、競輪関係団体と連携して、「競輪場トータリゼータシステムの融合化」及び「インターネットによる競輪動画サービスシステムの開発」に着手する。

また、サービス及び信頼性の向上を目指した「KEIRIN.JP」の更なる改善等の開発及び競輪諸制度の改正に対応したシステム開発並びに調査研究を行う。

システムの運用管理については、競輪が円滑に開催され、関連情報サービスが提供されるよう確実に、効率的にかつ安定して行うものとする。特に、障害の未然防止に万全を期すものとする。

あわせて、本財団の事業を効率的・効果的に実施するとともに、「競輪・オートレース事業活性化プラン」及び公益法人制度改革に的確に対応するため、本財団の運営管理の強化を図る。

1. 次世代車両情報システムの開発

本財団は、平成16年度から19年度に「経済性」、「安全性」及び「拡張性」を基本理念として車両情報システム（V I S）の再構築に取り組み、大きな成果を上げることができたが、競輪の現況や取り巻く環境には依然として厳しいものがある。

競輪の現況及び展望を踏まえ、特に、競輪場の情報システムが抱える課題を解決するために、コスト削減及びサービス・機能・信頼性の向上を目指した画期的な「次世代車両情報システム」を構築することとする。このシステム開発は、規模が大きいこと、関係団体が多数になることから、競輪関係団体と連携して中期的な重点事業として実施することとする。

（1）競輪場トータリゼータシステムの融合化

競輪場において運営管理されているトータリゼータシステム（T Z S）の多くは、今後数年内に機器の更新時期を迎える。また、T Z S に対しては、その導入・運用経費を削減すること、相互払戻の実現や車券発売時間の柔軟対応など機能を充実することが求められている。さらに、制度改正に柔軟に対応することも求められている。

こうした要求に対応するためには、競輪場に設置されているV I S の通報システムや情報提供システムの機能も含めて見直しを行い、コスト削減、機能の拡充、信頼性の向上を目指したT Z S の融合化を図ることとする。また、融合化システムへの移行については、各競輪場及び場外車券売場の実情に柔軟に対応できるよう考慮するものとする。

T Z S の融合化については3年程度の開発期間が必要であり、平成20年度は業界合意のもとに体制を整備し、実施計画を策定し、開発に着手する。

（2）競輪動画サービスシステムの開発

インターネットによる競輪の動画配信については、多くの競輪場が「独自」に実施している。このため、お客様からみると番組・画質・操作等の面で統一性に欠けており、サービス面も劣っている。一方、配信側である競輪場からは運用コストが負担となっている。

本財団は、こうした課題を解決する準備として、平成19年度に競輪動画の集配信に関する調査研究を実施した。この中で、特に競輪動画の検索・表示部分についてプロトタイプ（試作）システムを開発し、関係者に公開した。

この調査研究の成果及び近年の関連する技術動向を踏まえ、動画配信サービスの向上を通じて新規のお客様の獲得、競輪売上の向上等を目指して、KEIRIN.JP で実現した「投票」と「情報」の融合化に「動画」も加えた

インターネットによる競輪動画サービスシステムを開発する。具体的には、高品質な映像、快適な操作性、利便性の高い機能、標準化されたサービス及びコスト削減を実現する。

平成20年度は、業界合意のもとに体制を整備し、システム開発を行い、順次サービスを開始する。

2. システムの研究開発

サービス及び信頼性の向上を目指して、電話投票システムの拡充、KEIRIN.JPの改善、通報バックアップシステムの整備等の開発及び競輪諸制度の改正に対応した開発を行う。また、V I S再構築の評価等今後のシステム開発・運用管理に資する調査研究を行う。

(1) サービス向上を目指した開発

ア 電話投票システムの拡充

現行の電話投票システムは、購入について1日1人当たり999ベットを、電話投票会員数(退会者数も含める。)について64万口座を限度としている。お客様からのベット数の拡大要望及び新規会員募集に応じて、これらの限度を引き上げるためのシステム改修を行う。

イ 新ネットバンクシステムの開発

ネットバンクとの精算処理を行うネットバンクシステムについて、会員数増加や前日発売に伴う発売時間延長等に対応するため、新しいネットバンクシステムを開発する。

ウ KEIRIN.JPの改善

平成18年6月に全面リニューアルされた競輪ポータルサイトKEIRIN.JPについては、お客様の利便性を更に向上させるため、お客様の要望を反映した機能改善のための開発を実施する。

エ 開催管理システム等の改善

車両情報システム(V I S)再構築フェーズ2の開発で、平成19年10月に稼働した「開催管理システム」及び「競輪情報検索システム」について、関係団体の利用者の利便性を更に向上させるため、利用者の要望を反映した機能改善のための開発を実施する。

(2) 信頼性向上を目指した開発

ア インターネット投票システムのケイリングランプリ08対応

今後ともインターネット投票の利用者数、投票数の伸びが見込まれるが、ケイリングランプリ08において投票困難な状況が発生しないように、インターネット投票システムの能力を増強する。

- イ KEIRIN.JP ポータル部の二重化対応
KEIRIN.JP の一部に障害が発生した場合、瞬時に予備のトップページに切り替わり、スムーズに投票が継続できるようにシステム開発を実施する。
- ウ 通報バックアップシステムの整備
通報バックアップシステムは、競輪場及び場外車券売場のシステムの障害時に別の通信ルートで発売票数の通報を緊急的に行うものである。同システムは平成 8 年度に導入されて、老朽化が激しいため、新システムに更新する。
- エ 総合監視システムの整備
V I S の稼働状況を監視するとともに、システムのログデータの収集、対象システムの拡大、及びリアルタイム化等、監視システムの効率化・高度化を図るための開発を行う。

(3) 制度改正対応の開発

- ア 競技関連
平成 1 9 年 1 2 月から導入された S 級 S 班、平成 2 0 年 1 月から実施された A 級選手の対戦方式の変更に伴う競技関連の制度改正に関して、本格対応のための開発を行う。
- イ レース体系関連 (G I、G の新開催体系、SS カップ、SS シリーズの新設)
業界が平成 2 1 年度から実施することを発表した G 、G の新開催体系、新選抜基準やレースの新設等に関して、開発を実施する。

(4) 調査研究

- ア V I S 再構築の評価
平成 1 6 年度から平成 1 9 年度にかけて V I S 再構築を実施したが、今後のシステム開発及び運用管理に有効に活用するため、主に基本理念である 経済性、安全性、拡張性の観点から達成状況等の評価を行う。
- イ 障害復旧時間の短縮化
V I S の障害復旧時間の短縮化は、V I S の信頼性に大きく関わる問題であることから、システム障害発生後の復旧時間の短縮化を実現するための調査研究を実施する。
- ウ キャッシュレス投票
現在インターネット投票で利用しているネットバンキングに加え、電子マネー等の利用の可能性について調査研究を実施する。
- エ 重勝式投票
一部競輪場で先行実施される重勝式投票に関する情報を、共同通信社を含めた関係団体に自動配信するシステムについて、業界の要請に

基づいて検討等を行う。

また、今後の重勝式投票については、先行実施場の動向を踏まえて、重勝式投票の種類、発売方法のあり方等、システム面から調査研究を実施する。

3 . システムの運用管理

競輪が円滑に開催され、関連情報サービスが提供されるように、前年度に新たに実施された前日発売等に十分配慮しつつ、競技関連、投票関連、情報提供関連及び KEIRIN.JP 関連の業務のシステムを確実に、効率的にかつ安定して運用管理する。特に、システムの保守、マニュアルの見直し等障害の未然防止に万全を期すとともに、万一障害が発生した場合には迅速に対応するものとする。

(1) システムの運用管理

ア 車両情報システム (V I S) の運用管理

次の業務を実施するため V I S の運用管理を行う。

競技関連業務

競輪の開催に必要な関連情報を収集・蓄積・管理するとともに、併せて開催運営に関する情報を提供する。

投票関連業務

本場・場外間の通報を迅速かつ正確に行う。また、電話投票・インターネット投票等に係わる処理を迅速かつ適切に行う。

情報提供関連業務

関係団体及び報道機関等に対する情報提供、電話投票会員及びその他お客様に対する情報提供を実施する。

KEIRIN.JP 関連業務

KEIRIN.JP のデータ更新、お客様からの操作に関する照会対応等を実施する。

イ システム監視、データバックアップ等

V I S の稼働状況を一元的かつ的確に監視する。また、定期的にログデータの収集、データのバックアップ等を行う。

ウ 重勝式投票への対応

一部の競輪場が独自に実施する重勝式投票に関する情報を、暫定的に共同通信社等に提供する。

(2) 新稼働システムの安定的な運用及びサポート

ア 前日発売

本年 4 月から G 以上で本格的に実施される前日発売に関するシス

テムについて、開催施行者・実施競技会及びサイクルテレホン事務センターと綿密な連携のもとに、適切に運用管理を行う。

イ 競輪情報検索システム（KISS）

KISSの利用促進、特にデータベース検索の利用を促進するため、関係団体の利用者向けにサポートを行う。

ウ 開催管理システム

開催管理システムが円滑に利用されるようにヘルプ画面の更新等を行う。

（３）障害の未然防止及び障害発生時の対応

ア システムの保守

システム障害を未然に防止するため、システムログや障害事例の調査分析を行い適宜対応するとともに、定期的にシステムの保守を実施する。

イ マニュアルの見直しと周知徹底

新稼働システム及び障害発生事例を反映してマニュアルを見直すとともに、特に障害時対応マニュアルの周知徹底を図る。

ウ リハーサル等の実施

G 以上の開催においては、事前にリハーサルを行い、発売時間等の変更、災害時、障害時の対応について周知徹底する。

エ バックアップシステムの活用及び速やかな復旧

災害・障害発生時には、通報バックアップシステム、無線バックアップシステム、一斉同報システム等を活用して、応急対応をする。同時に、原因究明、代替手段の検討等最善を尽くし、速やかな復旧に努める。

オ 迅速な連絡

災害・障害発生時には、連絡体制を活用して、関係者に迅速に連絡を行う。また、お客様に対して、必要に応じてKEIRIN.JP等による案内を行う。

（４）新規場外開設時等のサポート

新たに場外車券売場の設置及び設置形態を変更する施行者及び日本自転車競技会に対して、システムの導入・接続及び運用管理を支援する。

（５）センター設備環境の整備

ア 電源設備の更新

経年劣化のため更新した分電盤（PDF）について、各システム機器を最適に接続する。

イ 監視モニターの設置

VIC運用部門において、迅速的に障害発生情報を表示できるよう

に総合監視システムの一部として監視モニターを設置する。

(6) 講習会及び研修会の開催

新稼働システムの説明、障害の未然防止及び障害発生時の迅速かつ適切な対応を内容とした「通報系実務担当者講習会」、「通報系新任者講習会」及び「自転車競技会担当者講習会」を実施する。

(7) 情報セキュリティ

個人情報保護法を遵守するとともに、V I S へのアクセス制限等管理を徹底する。また、V I S のセキュリティ診断を実施する。

4 . 財団の運営管理

本財団の事業を効率的、効果的に実施するとともに、「競輪・オートレース事業活性化プラン」及び公益法人制度改革に対応するため、規程類の整備、事業・組織の見直し、技術力の向上等、本財団の運営管理の強化を図る。

また、関係団体の協力を得て本財団創立 2 0 周年記念事業を実施する。